

ヒグマの個体群動向に関する既存データ

本計画では、ヒグマの人為的な死亡総数の目安を設定するにあたり、過去の捕獲実績に基づいて計算する手法を用いヒグマ個体群動態を推定した（付属資料 1 - 1 参照）。一方で本手法は、必要なデータが十分に得られていない現状のなかで算出されたものである。今後、適正な管理のためには、情報収集の強化や新たな調査手法の検討等が必要となる。

ヒグマ個体群動向を推定するための既存の別のデータとして、例えば観光船からのヒグマ目撃情報が挙げられる。小型観光船運営会社 1 社が運営する 3 コース（ルシャコース・知床岬コース・硫黄山コース、いずれもウトロ港発着）で目撃されたヒグマ情報が、安定かつ経年的に記録されている。

観光船からのヒグマの目撃状況（過去 5 年間）

- ・ 運行 1 回あたりの平均目撃組数はルシャコースで 4.4 組、知床岬コースで 4.3 組を平成 24 年に記録。平成 25～26 年は 1.7～2.1 頭と低調に推移、平成 27 年はルシャコースで 4.0 頭、知床岬コースで 3.3 頭と回復するものの、平成 28 年は再び減少し、ルシャコースで 2.3 頭、知床岬コースで 2.4 頭を記録。
- ・ 大量出没に伴う大量捕獲が発生した平成 24 年と平成 27 年の翌年、目撃組数は大きく減少。
- ・ 平成 28 年の数値は平成 17 - 18 年とほぼ同じレベルとなった。平成 17 年以降、ルシャコース、知床岬コースの目撃組数は概ね 2.0～4.5 組で推移している。

⇒これらのデータからは、知床半島のヒグマ個体群は一定範囲内での増減を繰り返していること（少なくとも個体数が激減しているような状況でないこと）が推測される。

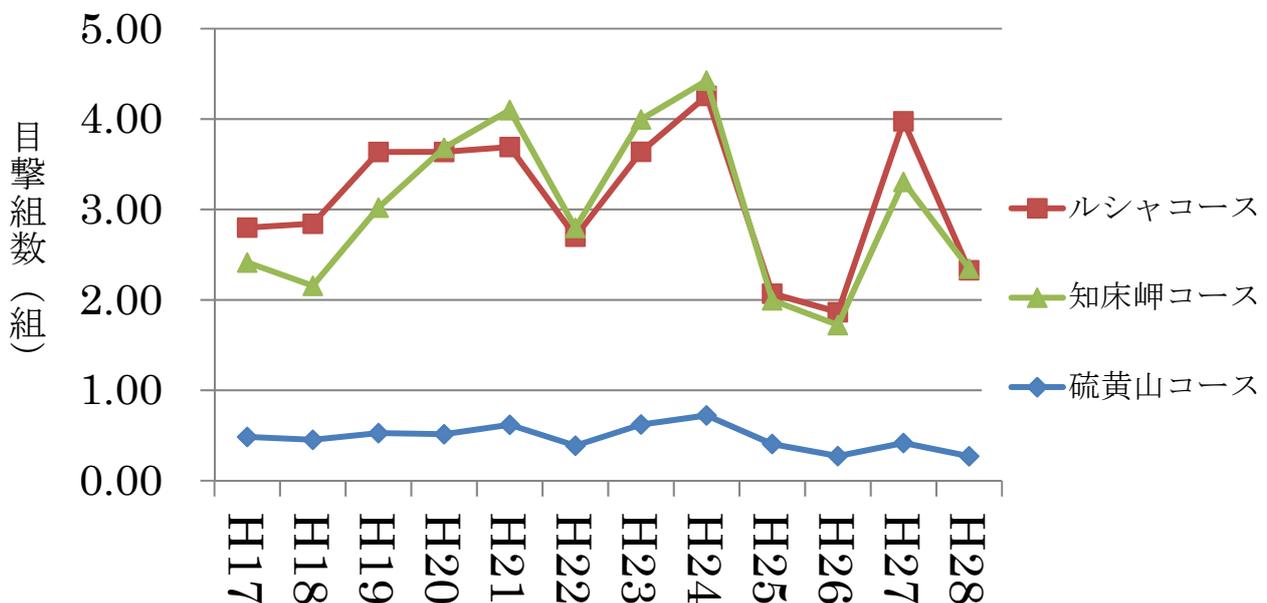


図 1. 観光船運行 1 回あたりの平均ヒグマ目撃組数（通年）

観光船の運航は知床半島の中央部から先端部に限られており、半島基部の情報が圧倒的に不足していることや、羅臼側の海岸線では安定かつ経年的に情報収集が行われていないこと等が課題である。ヒグマ個体群動態把握の精度向上のためには、このような複数の情報を複合的に組み合わせ推定していくことが重要だと考えられる。